

# 未来をつくる ソーシャルイノベーション

文・西村勇哉

CASE:

## 33 ふくやま病院



『ふくやま病院』では、緩和ケアと在宅医療・看護に力を入れ、通院・入院・在宅がつながり合い、地域全体で支える安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。

### POINT!

社会の状況に合わせ、これまでの役割を超えた役割を担っていくことが社会の進化につながる。



コミュニティホールは、地域の人たちでも借りることができ、病院主催のものだけでなく地域住民主催のセミナーなども開催される。www.fukuyama-hp.jp

今回は、兵庫県明石市にある医療法人社団医仁会『ふくやま病院』から、ソーシャルイノベーションのポイントを紹介いたします。

いま日本には、8426の病院と10万1840の診療所、合わせて約19万軒の医療機関があります。厚生労働省が2015年に行った調査では、病院へ来る目的の92・4パーセントが診察・治療・検査などの医療行為を目的とし、健康診断や予防接種は4・8パーセントでした。多くの人は、けがや病気など、なにか不調が起こった後に病院に赴いているということになります。

『ふくやま病院』では、2016年に病院移築の際に、「また来てね」と言える病院を軸に、病院内に一般書籍が数多く置かれた本棚や、講座やセミナーなど多目的に使えるスペースを加えた新しい病院施設を開設しました。院内には、居心地にこだわった家具を置くなど、空間として行きたくなる工夫が多数あります。

『ふくやま病院』の元・病院長（現・理事長）の譜久山剛さんに、なぜ来訪した患者への医療提供以上のことに取り組もうとするのかについて伺ったところ、「私たちは、診察や治療ではなく、例えば本を読みながら病院に越えたいといった時に、血圧を測るとか糖尿病教室に参加してほしいと考えています。病気になっていない時から医療機関に関わることで、食事に気を使ったり運動

習慣を見直したりして、薬に頼らず健康を維持できる状態が理想的です。結果、社会的には医療費・介護費の削減に寄与しながら、個人としては、安心して地域に住み続けられる。それが私自身の楽しみであり、また町の医師として病院としての役割だと考えます」という答えが返ってきました。

また現在が一番の足元の課題について、「医師の人材確保が課題になっています。この考えに共感してくれる医師とどのように出会うか、また、教育のシステムに人を割きづらい小さな医療機関でどうやって知識のブラッシュアップを続けていくかといった、人材面が大きな課題です」と続けます。

『ふくやま病院』では、これまでの病院とは全く異なる新しい役割を病院に持たせることに挑戦しています。結果、医療の課題にも同時に取り組みます。社会の状況に合わせ、これまでの役割を超えた役割を担っていくことが、社会を進化させ、よりよい未来を近づけていきます。



にしむら・ゆうや ●大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラックを設立。Emerging Future, we already have (すでに在る未来の可能性を実現する)をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と企業内の新規事業開発のためのオープンイノベーションプラットフォームの構築に取り組む。  
NPO法人ミラック代表理事  
http://emerging-future.org